様式第２（第９条関係）

政務活動費成果報告書

令和6年　3　月　12日

犬山市議会
議長　柴田　浩行　様

議員名　鈴木　伸太郎

下記のとおり、研修の成果を報告いたします。

(1) 年月日	令和６年２月　１４日(水)～　２月　１６日（金）
(2) 場所	全国市町村国際文化研修所
(3) 形態	会派（　　）：その他（　鈴木のみ　）
(4)内容	別紙
(5)成果・提言	別紙

犬山市議会
受付
6.3.12

研修報告　　令和６年２月１４日～２月１６日　大津市　全国市町村国際文化研修所

図書館とまちづくり

コロナ等で受講できなかった研修、今回やっと受講することが叶った。
楽田ふれあい図書館「つばさ」の利用状況を見ている限り、地域での認知度、利用者数、それぞれ順調とは言えない。以前から課題には気づき、所管課にも提案してきたが、なかなか改善していかない。その改善策、図書館と地域の関係を学ぶために受講した。
受講者は約５０名、うち議員は８名。

○まちづくりと図書館の接点　　慶応義塾大学　糸賀氏

・最近の新設図書館は、駅前立地、ショッピングセンターなどとの併設による集客施設の任務も担っている。そのような事業は文部科学省ではなく国土交通省からの補助メニューで実施されるケースが多い。賑わいづくりの施設としての図書館、それはそれで必要だが、それだけでいいのか？
　事例（鈴木調査済み）・・・小牧市・江南市・大和市・藤枝市・可児市　他
・「まちづくり」視点からの図書館の役割　→　にぎわいづくり・集客施設
・図書館視点からの図書館の役割　→　資料提供・リカレント・居場所づくり
・どちらにしても、一人一人の暮らしに豊かさをもたらす道筋が大切。
・図書館は単なる読書空間にとどまらず、以下のような機能も求められる公共施設。
　・床面積当たりの集客力が高い
　・利用者の年代の幅が広い
　・リピーターが多い
　・無料、開館日開館時間が長い
　・司書という専門職が相談に応じ、ボランティア活動も盛ん。
　・時間つぶしや趣味、娯楽から調査研究まで幅広い目的
　・あらゆる知的欲求に幅広く対応
　・短時間から長時間まで、自分の居場所がある
　・カフェ、スポーツ、学習塾、映画、書店、、、民間文化施設との親和性が高い
・地域の課題解決を支援するサービスに強い（専門職の要請と配置が必要）
・地域課題解決には、さらに地域密着の必要性。
・図書館は本来、まちづくりではなく、「地方自治」「生涯学習」「情報社会」といった局面へ広がりを見せる【地域の情報拠点】と考えるべき。

○市民とともにつくる図書館　京都橘大学　嶋田氏

滋賀県東近江市立永源寺図書館、岡山県瀬戸内市立図書館設立に関わった内容を中心に、図書館を立ち上げる際の考え方、手法を学んだ。

・永源寺地区は山間で高齢化率が高い、これが地域の大きな課題。その課題を包含しつつ地域に必要とされる図書館づくりを進めた。
・行政に求められるのは、市民と対話し、課題発見を支援し、活動をエンパワーメントする包容力と専門性。
・瀬戸内市では、住民ワークショップで基本構想→基本計画の流れの中で、「図書館の生かし方」を議論。
・住民への問いは「図書館で○○を実現する」や「図書館で○○がしたい」。
・市民がコンセプトやビジョンを作ることで、真に住民本位、住民主体の図書館が実現。
・市民とともに図書館を創る理由
　・市民がコミュニティの課題について考え、その解決に主体的に関われる「場」
　・市民が「自分の居たい場所」と感じられる「場」を、市民が主体的に考え、意見を出し合い、創りあえる場。
　・子供も一人の市民としてその権利が保障される場。
　・大人こそが学べ、自ら主体形成のための教義と知識を涵養できる場。
　・図書館は人と人を繋ぐ、知の循環の場。
　・本を貸すだけ、知を提供するだけではない。

○わたしたちの図書館を創る　（一社）まちライブラリー　磯井氏

公共図書館ではなく、街なかに開設された施設のミニライブラリーを提唱する磯井氏の話から、全国の事例を紹介していただきながら、その効果を学んだ。

・カフェ、お寺、クリニック、福祉施設、公園、農園・・・どこでもできる。
・【まちの小さな図書館をみんなの広場に】が基本コンセプト
・まちライブラリーは自由度が高く、かつ、地域交流やイベント、学び舎コミュニティの場になっている。

※研修終了後、京都市内のまちライブラリーを調査

○図書館におけるリビングラボ島「共創」の取組　アカデミックリソース　李氏

各地で最新の図書館を創造している李氏の講義。

小千谷市の新図書館「ホントカ」、須賀川市の新図書館「TETTE」他の事例から、

新規開設の図書館の創り方を学び、その上で、図書館のあるべき立ち位置を考えた。
今回の話はまちの賑わいづくりの機能を持たせた新設図書館の手法が中心で、

私の目的だった地域の既存の小さな公共図書館とは若干考え方にズレがあった気がした。さらに、内容は観念的であり、犬山における現実や実務レベルとはちょっと違う気もした。

・図書館は文化の中心的役割を担っている（デジタルアーカイブ含め）。
・にぎわい交流拠点とするならば、様々な機能（図書館・郷土資料館・子育て支援・交流促進と創造・カフェ）の集合体の方が面白い。
・機能として、情報集積・地域づくり・学びの環境づくりの３つに大別。
・従来の「官民」という立ち位置ではなく、「多元的な共創による官民・公民連携。」
・誰もが参加出来て、互いに扶助しあえる相互依存の関係が大切。

○図書館をいかしたまちづくり　前・県立長野図書館長　平賀氏

３日間の振り返り、グループ討議の発表および講評をいただいた。

・図書館は公共施設の中では集客効果を期待できる施設。
・まちづくりをメインにして図書館を設置する流れがトレンドだが、どうか？
・デジタルシフトにも対応していく必要あり。
・従来は提供者（公共）が図書館事業の主体だったが、利用者が図書館を創っていく時代になってきている。
・図書館はコミュニティ形成の重要なパーツ。
・計画→建設→運用で終わりではない。それからが大切。
・図書館の役割と議員の仕事は、地域の課題解決、人と人を繋ぐ、等で似ている部分が多い。

○その他　まちライブラリー見学　　京都市内

研修終了後、京都市内にある「まちライブラリー」６か所を急ぎ回って見学した。

① 京都橘大学
学生ホールのようなスペースの一角に、７～８坪で展開。海外旅行、留学のきっかけとなるような書籍が多い。英字新聞等も設置。

② (株)ウエダ本社　「ウテナワークス」
事務機器、文具を扱う企業が、自社ビルの一角で展開している。
女性の職場環境を改善するという企業活動から派生、女性をターゲットに、ライブラリー、起業塾、子育て相談などを展開。

③ アトリエとも
四条の繁華街にあるライブラリー。就労継続支援Ｂ型を運営し、カフェやスイーツを提供する事業者が展開。障がい者の作品も展示販売。

④ and happiness
市営住宅の一角に整備された新設の集会場内にある図書館。
日本財団「第３の居場所」採択事業者でもあり、子育て環境も充実。蔵書は多く、子どもから大人までの居場所として好適。

⑤ まちライブラリー@規文堂
事務機器問屋さんの正面に小さな本棚を１台だけ設置の小さな図書館。

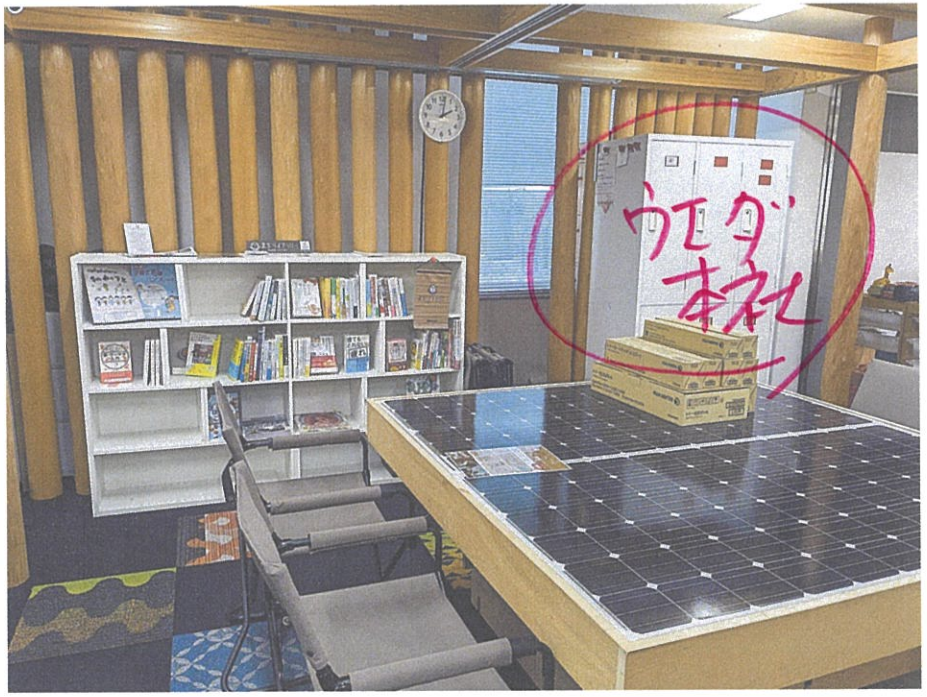
⑥ まちライブラリー@さいじテラス
就労継続支援Ａ・Ｂ事業を展開する事業者の玄関先の庭に、小さな本棚６台程度を配置。

※④～⑥は、半径１００メートル以内に集中して立地。

○まとめ・提言

・楽田ふれあい図書館「つばさ」の活性化には、地域への知名度向上のほかに、ここで何をするか？のプラン作りが必要
・小学校内に立地する強みを発揮できるイベント展開
・地域の個性特性を打ち出す展開
・地域の各種団体との連携
・ちいさな私設図書館「まちライブラリー」の展開は地域コミュニティづくりに役立つ。

以上


ウエダ
本社

京都橘大学

アトリエとも

アトリエとも

さいじテラス
西寺育成苑

and happiness.
and happiness

想文堂

さいじテラス
さいじテラス
Saiji Terrace